G-7　多賀城市八幡地区　　2012 年 1 月 16 日（月）

報告者名　菊地　暁　　被調査者生年　1941 年（男）
調査者名　菊地　暁　　被調査者属性　不動産経営（元・農家、元・ガス販売店経営）
補助調査者　赤尾　智宏

話者家について

話者は昭和 16 年、宮内の東原で生まれた。2 歳の時、海軍工廠建設のため、八幡の現在地に引っ越してきた。当時の家は茅葺きだった。現在の家は 40 年ほど前に建て替えたもの。西園寺（臨済宗）の檀家で八幡神社の氏子。

話者家はもともとは武家、桑島家の家臣だった。桑島家は長野の諏訪からいろいろめぐって、宮城県の中津山から宮内に入った。話者家がどこで家臣になったかはよく分からないが、7、8 代前の先祖が中津山からついて来たらしい。その後、桑島家は幕末に榎本武揚に付いて北海道に渡ったが、話者家はそのままこの地に留まって百姓をした。

話者はガス販売店をやっていたが、それも止めてしまった。今は不動産収入で暮らしている。資材置き場を貸している。（その土地に）イオンが利府から来るはずだったのだが、いろいろあって、うまくいかなかった。「オレの人生終わりださ」。

結婚は昭和 40 年。妻は七ヶ浜出身。長男は同居しており、双日（企業名）に務めている。

蛇王権現について

蛇王権現は、先祖の誰かが白蛇を殺したか何かしてたたられたので、祀り始めたものらしい。明治 17 年、4 代前の佐藤熊之進が八幡神社境内に蛇王権現のイシボトケ（石碑）を建てた。それ以前、石碑は屋敷にあった。

毎年、旧暦 10 月 8 日にイシボトケの前でお祀りしていた。イシボトケの前に米、果物、魚の煮付けなどを供え、ホウインさま（八幡神社神主の A さん）に頼んで祀ってもらった。以前は隣近所の人も誘ったが、今はウチだけでやっている。

そのイシボトケも津波でなくなってしまったので、今年は家で祀ることにして、庭の御稲荷さんと一緒に祈祷してもらった。やらないと気持ちが悪い。罰でもあたると困る。蛇王権現を作り直そうと思っているが、石で作ったものか、宮大工に頼んだものか、初めてのことなので考えている。自分の息子がどうするかは分からない。

八幡神社の総代を 10 年ほど務めているが、そちらの復興もなかなかはかどらない。蛇王権現のあった場所を土手にするという話も出ている。

自宅は津波で床上 68 センチの浸水。壁も土台も崩れ、今も後片付けの途中。

カミサマについて

４代目のＢ氏は身体が弱かったため、その娘（話者の祖母）のＣ氏がオガミヤ（祈祷師）をやっていた。Ｃ氏は利府から婿をとった。オガミヤをやったのはＣ氏だけだが、屋号がカミサマになった。オガミヤをやっている様子を見たことはない。普通の人だった。話者が７才の時に亡くなった。（奥様いわく）嫁入りしたとき、屋号で「カミサマ」と呼ばれてびっくりしたことがあった。今は普通に「○○さん」と呼ばれている。